



Relation Gate Magazine

株式会社ここみケア

第**11**号

2024年7月発行



小規模多機能ここさいむら青山
主任

和賀井 啓悟

和賀井啓悟が株式会社ここみヶの1員になっておよそ8年。現在は小規模多機能ここさいむら青山の主任として日々の業務に励んでいる。思い出深い経験や、仕事に取り組む際の心掛けについて聞いた。

最も嬉しかった言葉

未経験で始めた介護職。今でも、仕事を始めてから最も嬉しかった瞬間として、思い出される場面があるという。最初は苦むつ交換に自信がなく、実際に持せつ物が漏れてしまふことも度々あった。

「慣れるまで仕方ないよ」。

その他のキャストは励ましてくれたが、介助を受けるゲストやご家族の気持ちはそのようには受け止めてくれない。

あるとき訪問したゲスト宅で、ご家族から否定的な言葉を掛けられたこともあった。もともと負けず嫌いな性格もあり、他のキャストからアドバイスをもらって上達を目指した。そして、ご家族の了承を得ながらパッドの当て方を試行錯誤する日々が続いた。

「あなたがやると、違いし漏れな

くて良いわね」。

以前苦言を呈されたご家族からその言葉をもらったときは、大きな達成感と喜びを感じた。

管理職として

主任として心掛けているのは、キャストがなるべく負担なく働ける環境をつくること。しかし、介護の仕事は過酷な場面も多く、家庭にしろ寄せがいくこともある。これらことから、最終的には辞めてしまふ人も少なくない。それぞれの生活を尊重し、希望休はできる限り取得できるようにスケジュールの調整に努めている。みんなで支え合いながら楽しく働ける職場をつくるのが、和賀井が感じている今の使命だ。

「ありがとう」の効能

和賀井が大切にしているのは、挨拶、謝罪、感謝の言葉。特に感謝の言葉については、以前会社で接客マナー講習を受講した際、和賀井の中でも大きく意識が変わった部分だという。それまでは、聲かが作業を

していても、それがその人の仕事なのだから当たり前だと感じていた。しかし、自分には直接関係がないとしても、一言感謝の言葉を発するだけで、相手が気持ち良く作業できたり、モチベーションが向上したりする効果があることに気づいたのだ。そして、自身がキャストにフォローしてもらったときは、必ず大きな声で「ありがとう」と伝えるようになった。部下にも同じように、挨拶、謝罪、感謝の気持ちだけは、きちんと態度と言葉で示してほしいと願っている。

「この先も今まで通り、みんなが無理なく働ける環境をつくるのが目標」だと語った和賀井。高志を胸に、今日も前を向いて突き進んでいく。



和賀井さんってどんな人？

Q1. 和賀井さんを一言で表すと？

頼れるお兄さん



小規模多機能
こさいむら青山
てかみえこ
手塚 美英子さん

Q2. 和賀井さんの「すごいところ」を教えてください！

キャストの中で一番年下なので、話し難いこともあるかと思いますが、皆を上手くまとめているところ。

Q3. 思い出エピソードを教えてください！

行事担当になったときのことで、一緒に担当予定だったキャストが社内異動になってしまい困っていたところ、和賀井さんが場所の下見ややり方などを丁寧に教えてくれ、無事に行事をやり遂げられました。

Q4. 感謝や激励のメッセージをお願いします！

和賀井さんは上手く業務が回るように、現場のことを気遣ってくれていると感じます。いつもありがとうございます。その気持ちに応えられるように私も努めたいと思います。これからも宜しくお願いします。

Q1. 和賀井さんを一言で表すと？

親しみやすい主任！



小規模多機能
こさいむら青山
おの ともよ
小野 朋代さん

Q2. 和賀井さんの「すごいところ」を教えてください！

皆が大変に感じる仕事や夜勤を率先してやってくれたり、人が足りない日に急遽出勤してくれたりなど、とても優しく頼りになる存在です。

Q3. 思い出エピソードを教えてください！

「お出かけ行事のときに、キャストの人員がもう少しいたら安心なのになー」という声に和賀井さんが耳を傾けてくれ、休みの日に急遽参加してくれました。おかげでキャストの皆さんにもお出かけ行事を楽しんでもらいながら、安全に行うことができました。

Q4. 感謝や激励のメッセージをお願いします！

いつも相談にのってくれてありがとうございます！和賀井さんの親しみやすさと気配りのおかげで、働きやすい職場になっています！これからも宜しくお願いします。

気配り上手で、いつも皆から頼られている和賀井さん！和賀井さんと一緒に仕事をする2名の方から、その人望を裏付けるエピソードと、感謝のメッセージをいただきました。

私の事業所のココが自慢!

看護小規模多機能を兼ね備えた、ここさいむら小田原の訪問看護を支える、訪問看護ステーション。3名という少人数ながら、ゲストへの行き届いたサービスを提供できているのは、皆さんの協力体制があるからこそ。

今回はそんな訪問看護ステーションについて、管理者の伊藤さんに詳しく教えていただきました!



私を紹介
します!

訪問看護ステーション
ここさいむら小田原
管理者/係長代理
いとう まみこ
伊藤 麻美子さん

01 「訪問看護ステーション ここさいむら小田原」って こんなところ!

**訪問看護に加え、
介護業務等多岐にわたって行います!**

看護小規模多機能施設のここさいむら小田原と一体型となっている訪問看護ステーションで、訪問看護に加え看護小規模多機能の業務も行っています。そのため、ステーション内の訪問看護と、看護小規模多機能における訪問看護の両方を担っています。キャストは看護師が3名おり、訪問看護のほか、介護業務やホールの見守り、食事作りや入浴支援等が主な業務です。このほか臨時で救急車に同乗したり、体調が悪化したゲストを迎えに行ったりと、その都度状況に合わせて様々な業務が発生することもあります。

02 ココが自慢!

**一体型の施設だからできる、
一人ひとりに寄り添ったアドバイス**

複合サービス拠点ここさいむら小田原では、様々なサービスを行っているため、同じ建物内でゲストの方の情報共有ができ、スムーズに連携をとることができる場所です。そのため、**関わるゲストの家庭環境や、ご家族の介護状況等のバックグラウンドを細味し、適切なアドバイスを行うことができます。**以前、訪問看護を行ったゲストが発熱したと、息子さんから連絡を受けた際、すぐに病院を受診するよう勧めましたが、ゲストご本人にはすぐに納得いただけない様子でした。しかしゲストの旦那様が認知症のため、当施設のデイサービスを利用していただけから「旦那様がデイサービスを利用中の時間帯しか息子さんと一緒に病院に行けないので、早めに病院に行っていただきたい」とお伝えしたところ、受診いただけることに、病院を受診したところ、すぐに入院が必要な状態となっていたため「あのとき受診を勧めてもらって良かったです」と、息子さんに言っていただきました。

03 「他事業所には負けなし!!」 その魅力

少人数だからこそその協力体制

看護師3名という少人数体制なので、コミュニケーションを密に取ることができている点です。ゲストへの対応については、LINEWORKSやカルテだけではなく、直接会って意見を交わしながら話し合いをしているため、カンファレンスがしっかりとできていると思います。また、人数が少ないからこそ、互いの担当している業務を把握しやすく、フォローし合えるなど、協力体制がとれている点も強みです。**特に業務効率を改善するアイデアを、各キャストが積極的に提案してくれているため、とても助かっています。**

04 今後の目標

**各キャストの
スキルアップと働きやすい職場環境づくり**

今よりもさらに働きやすい職場環境を作ることで、仕事とプライベートのメリハリをつけて働ける体制を整えることで、キャストがより一層業務に集中できるようになるのではないかと思います。また、各キャストのスキルアップと、業務内容の質の統一も目標の一つです。キャスト全員が同じレベルで、全ての業務を担うことができるようになることで、ゲストにとっても良い効果があると思います。そのために、今後も担当者主催の勉強会を積極的に行っていきたいと考えています。

05 一緒に働く 皆さんのメッセージ

2023年9月の開設に伴い、私自身初めて管理者を務めることになり、的確な指示ができず迷惑をかけてしまうこともありましたが、皆さんにとっても助けられています。今後も働きやすい環境を作れるよう率先して頑張っていきますので、よろしくお願いたします。



今回はグループホームここさいむら小田原の素敵な取り組みを紹介합니다！
キャストの成長、ゲスト様の笑顔にほっこりすることでしょう。ぜひ参考にしてください！

グループホームここさいむら小田原 ルスタンティさん

5月の鑑飾りでは、初の企画・制作をしていただきました。出勤してびっくり！とてもきれいです！頼んだときには「できるかなー」と悩まれていましたが、自身で季節の行事を調べながら「こんな感じのものを作ろうかなと思っています」と生き生きと話してくれました。日勤帯ではゲストにも手伝ってもらい、夜間帯にもコツコツと制作してくれました。窓から差し込む光で温け、風になびくと本物の花のようです。壁のぼりも色とりどり、

ゲスト様も「きれいね」「作ったの？」と喜ばれていました。ルスタンティさん、ありがとうございます！



投稿者



グループホーム
ここさいむら小田原
リーダー

さとう みみ え
佐藤 文恵さん
投稿日:2024. 5. 1

企画のこだわり・工夫

ルスタンティさんは外国籍キャストということもあり、日本と母国の文化や風景、季節ごとの考え方が異なります。そのため、インターネットで写真を見てもらいながら日本の花や行事について話しました。

実施後の感想

途中で進捗具合を聞いたり、レクリエーションの際にゲスト様やキャストも手伝ったりしましたが、ほとんど1人で考えて作っていました。責任感が強く、素晴らしい方です。とてもきれいにできたため「きれいねー」と喜ぶ姿や携帯電話で写真を撮るゲスト様の姿が見られました。



一緒に働く皆さんへメッセージ

経験を蓄積に積み重ねてくれている皆さん。日々努力していることがよくわかります。ただ、1人で抱えてしまうとキャパオーバーになってしまうため、気軽に相談できる雰囲気を作りながら、新たな自分を発見していただけたら良いと思います。

悩みも話すことで、多少気持ちが落ち着くのではないのでしょうか。これからも一緒に頑張っていきましょう。飾り付けなども頑張っているため、ゲスト様と散歩がてら見に来てもらえたら嬉しく思います。

事例紹介

一工夫で、
このように
改善しました!

ゲストの皆様により安心して、心地よく暮らしていただくため、またキャストが安心して働くために、各施設で実施した、注目の取り組みをご紹介します。



泉ヶ岳のカフェにゲスト4名とキャスト2名で行き、コーヒーとケーキを食べて来た写真です。

業務内容

キャストのマネジメントや、営業活動、そしてご利用契約までの一連業務や、通院同行などの現場業務も行っています。



小規模多機能ここさいむら中央
管理者/係長

めぐろ たつや

目黒 達也さん

Case1

「笑顔をつくるプロジェクト」の一貫で、
非日常空間へお連れするイベントを実施

1. 状況: 集団の介護施設では、本来一人ひとりにマッチした対応が難しい

そこを小規模施設の強みを活かして、ゲストの希望や叶えたいことを日常会話から拾って、イベントを企画したいと思っていました。しかし、改めてヒアリングしようとする、どうしても構えられてしまうもの。そのため、キャストが聞いた思い出話や、普段行きたくても行けない場所などの話を共有し、実現する活動を実施しています。

実施した理由

ゲストの生活に彩りを添えたいという想い

同じ毎日の繰り返しではなく、ゲストの心や想いに寄り添った試みを通して、施設での生活の質も高めたいと考えたからです。

2. 取り組んだこと: コーヒー好きなゲスト4名を泉ヶ岳のカフェへ

ゲストの何気ない一言から希望を汲み取り、叶える活動を行っています。直近では、泉ヶ岳のカフェにお連れしてコーヒーを楽しみました。その他にも行ったことがない場所や思い出深い場所に行こうと考えています。

3. 実施後の様子

一緒に行ったゲスト同士で「楽しかった」などの会話が行き交ったり、お世話しているキャストに感想を伝えてくださったり……。ご家族からも感謝の言葉を頂戴するなど、ご好評いただいています。

学んだこと

教科書では学びきれない、ゲスト一人ひとりの心の動き

認知症と聞くと、何もかもわからなくなっている方も多いと思います。けれど認知症になっても、覚えていることや喜怒哀楽などの感情はあります。実際に外出先で喜んだり、感動の涙を浮かべたりしている姿を見ると、ゲストとの向き合い方を考えるきっかけになっています。

今後、実践したいこと

「会いたい」の声をすくい上げて実現

お年を召して歩くことが難しくなると、行動範囲が狭まり「会いたい」という想いが叶いにくくなります。そのため、私たちが相手の方に連絡をとって来ていただくなど、再会の場をセッティングすることによりゲストが新たな生きがいを得るきっかけを作りたいと思います。



業務内容

管理者としてキャストのマネジメントをはじめ、施設運営の管理、計画作成ケアマネージャーとして、ゲストのケアプランの作成などやご家族の相談援助などを行っています。

グループホームこささいむら音楽
管理者/係長代理

あべ くみこ

阿部 久美子さん

Case2

施設内の緊急事態に対応するため 自主研修を実施

1. 状況：夜間にゲストの容態急変！ ベテランキャストだから 対応できたものの……。

2024年2月の夜間、ゲストのお一人が施設で亡くなりました。容態の変化に気づいたベテランキャストがすぐに救急車を呼び、バイタル測定を行うなど冷静に対応。しかし、救急車の到着は間に合いませんでした。この出来事は、多くのキャストを動揺させました。

実施した理由

すべてのキャストが 緊急対応できる必要がある

法定研修で毎年、緊急時対応について学ぶ機会がありますが、座学ではなかなか実践につながりません。事故検討委員会がキャストにアンケートを実施したところ、より具体的な緊急対応を学びたいという声が多かったため、自主研修を企画しました。

2. 取り組んだこと：救急対応を学ぶ 実践的な研修を実施

2024年3月、救急対応に特化した自主研修を実施。人が倒れた想定で救急車を呼び、マネキンを使った窒息救助訓練を行うなど、**緊急時にキャストがどのように連携すべきか、実践方式で学ぶことができました。**



研修風景(研修:AEDを使った心肺蘇生訓練、奥の方では窒息解除訓練でハイムリック法を勉強しています。)

学んだこと

緊急時にどう動くべきか、 対応イメージを具体化できた

実践的な研修を行ったことで、キャストの漠然とした不安を解消することができました。研修の実施により、今まで「いざというときに自分では助けられないかも」と思っていた新人キャストも、「**救急車が着くまでに私たちにできることがあるのではないか**」といった意識に変化してきていると思います。

今後、実践したいこと

いざというときに すべてのキャストが対応できる体制づくり

キャストの意欲も高まっており、7月には消防についても教えていただく予定です。今後も勉強を継続し、もしものときに気持ちが焦っていても、しっかりと対応できるレベルまで持っていきたいと思います。

いかがでしたでしょうか？

目黒さんや阿部さんの事例について、他に聞きたいことや、実際に学んだことを取り入れてみたいうでの感想など、ぜひ教えてください！
また、日々皆さんが取り組んでいることについてもぜひ共有していきたいと思っていますので、「ウチの店舗は〇〇という取り組みによって成果が出ている！」や、「〇〇店舗の取り組みは素晴らしい！」といった情報もお待ちしております！



右のQRコードから
ぜひ投稿を
お願いします。





Relation Gate Magazine

株式会社ここみケア
社内報「Relation Gate Magazine」vol.11
2024年7月発行